

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は30年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され(前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5)、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

№1778長期変動 CH26PBF特異 CH20も同期 3/24.55 顕著特異で極大
3月29日(～30日)を示す ← 対応地震発生の可能性有

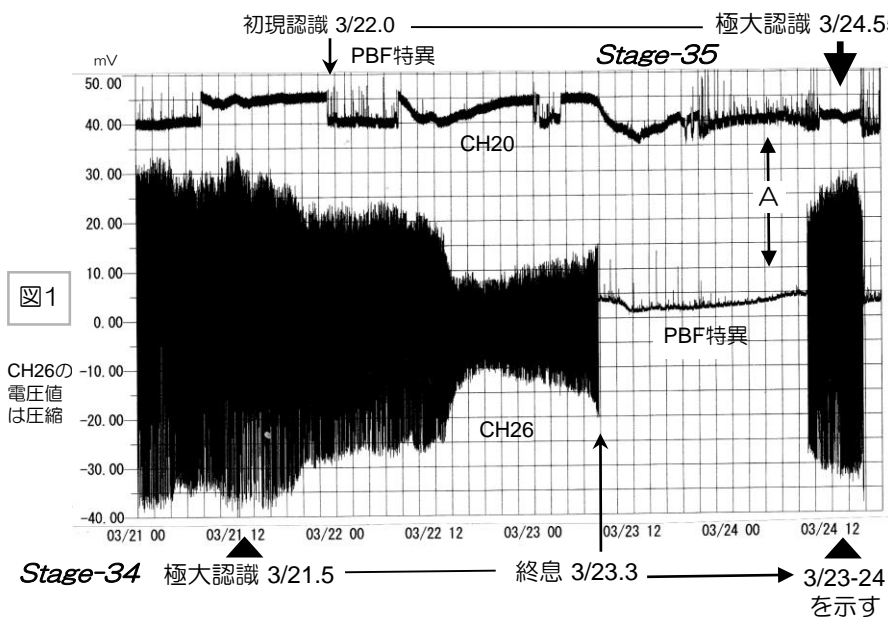


図1

CH26の電圧値は圧縮

◆Stage-34の顕著変動から3/23-24が示され、CH26とCH20にPBF特異が出現。昨日段階では3/23.3付近が、Stage-35の極大の可能性と考えました。

◆しかし、図1のとおり、本日PBF特異を記録していたCH26に短時間の顕著特異が出現しました。CH26とCH20の同期PBF特異の間隔が一番短くなってきた時間帯に突然、顕著特異が出現したこと、短時間の出現であることから、Stage-35の極大と認識しました。

◆図1のとおり、Stage-35は、
PBF特異初現=3/22.0
顕著特異極大=3/24.55
Tfap:Tmap=20:13 経験則を使用しますと、3/29±3を示すこととなります。3/29より早い時期は考えにくいいため、3/29(～30)の可能性が考えやすく、最大誤差は3/28～4/1となります。№1778前兆変動では、ひとつのStageの長さは最長で2年以上の場合もありましたが、今年のStage-30以降は極めて短くなっています。

◆№1778関連で直接波の様な不規則変動がCH09に現れていましたが、本日は静穏基線に近くなって参りました。本Stageが最終Stageである可能性も示唆されます。但し、今回示された時期に再び極大が出現した場合は続報させていただきます。

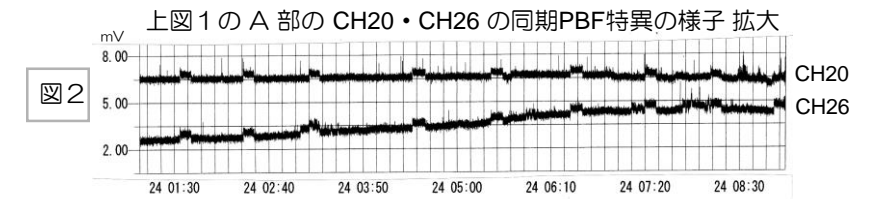


図2

上図1のA部のCH20・CH26の同期PBF特異の様子拡大

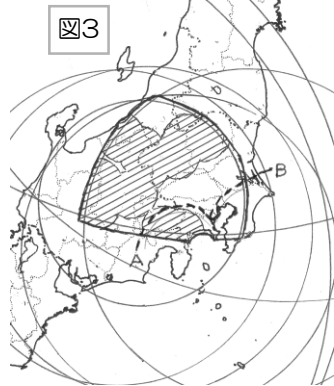


図3

- 推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域
図3斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性(群発的な活動の可能性も有)
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- 推定時期：3/29(～3/30) 最大誤差 3/28～4/1
※上記時期に極大が出現した場合は上記否定。続報予定

- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)
- ※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

A～B弧線以南の可能性は極めて低い

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。